

# 昔のひとのくらしのあとをさぐる (校区の主な遺跡)

## ■下丹生古墳 (古墳時代／下丹生／市史跡)

下丹生古墳は市内で唯一、横穴式石室内に入れる古墳です。集落の東側の小高い丘の上、標高約150mに立地する6世紀後半の円墳です。規模は直径約14.5m、高さ約3.5mで、丘陵斜面上にあり集落から見上げるとかなり大きく見えます。逆に古墳からは集落中心部が一望でき、眺望を意識した立地がうかがえます。



下丹生古墳石室

## ■三大寺跡 (白鳳時代／醒井・枝折)

明治36年、醒井小学校で白鳳時代のお寺の瓦が多量に出土しました。昭和57年の調査で、7世紀後半から8世紀初頭の建物の基礎「基壇」が出土しました。その規模は東西24m×南北21mで、三大寺の建物跡と考えられました。山が迫った地形から、壮大な伽藍が立ち並ぶものではなかったようです。



三大寺跡出土軒瓦

## ■松尾寺跡 (奈良～江戸時代／上丹生／県史跡)

松尾寺山の東南山腹標高420m地点にあり、役行者が飛行観音を安置したことにはじまります。戦国時代も武将からの信仰厚く、江戸時代には本坊と50余りの坊院がありました。調査で、尾根上とその側面に大小60近くの削平地が星形に展開することが確認され、9世紀後半から10世紀中頃の土器片が出土しました。



松尾寺本堂跡

## ■北条仲時と一族の墓 (鎌倉時代／番場)

元弘3年(1333)、鎌倉幕府を倒すため足利尊氏が京都に攻めこみます。京都の六波羅探題の北条仲時は、鎌倉に逃れるために近江の東山道(中山道)を北上します。番場で、天皇家の錦の御旗を揚げた北近江の武士団や伊吹山の僧兵、山賊たちが待ちかまえ、仲時一行432人は、逃げられないことを悟り、蓮華寺にて自害しました。仲時の墓は、蓮華寺と対面する六波羅山山頂にあります。



北条仲時の墓(六波羅山)

## ■鎌刃城跡 (戦国時代／番場／国史跡)

鎌刃城跡は標高384mの山頂に築かれた典型的な山城です。戦国時代に堀氏によって築かれたとされます。この辺りは南の六角氏と北の京極氏・浅井氏の勢力の境で、たびたび戦場となりました。元亀元年(1570)、織田信長が浅井を攻めると、堀秀村は織田方に付き、一説に坂田郡で6万石を賜ったといわれています。のちに堀氏は改易され、廃城となりました。



鎌刃城跡石垣

## ■校区のトピックス 木彫

都で寺院造営の絵師として活躍した息長丹生真人一族の芸術的伝統は、いまも木彫の技術に息づいています。上丹生の彫刻は、江戸時代末期、上田勇助とその友人が京都に修行に出て、技術を持ち帰り、神社仏閣などの大きいものから、欄間や仏壇彫刻など多種多様なものまでがけています。番場の泉亮之は、觸體を彫らせると「その技神に入る」といわれました。明治26年のワシントン世界博覧会などで受賞されています。



泉 亮之 作 森 大造 作



### 【資料館を利用しよう!】

#### 醒井宿資料館

(米原市醒井)

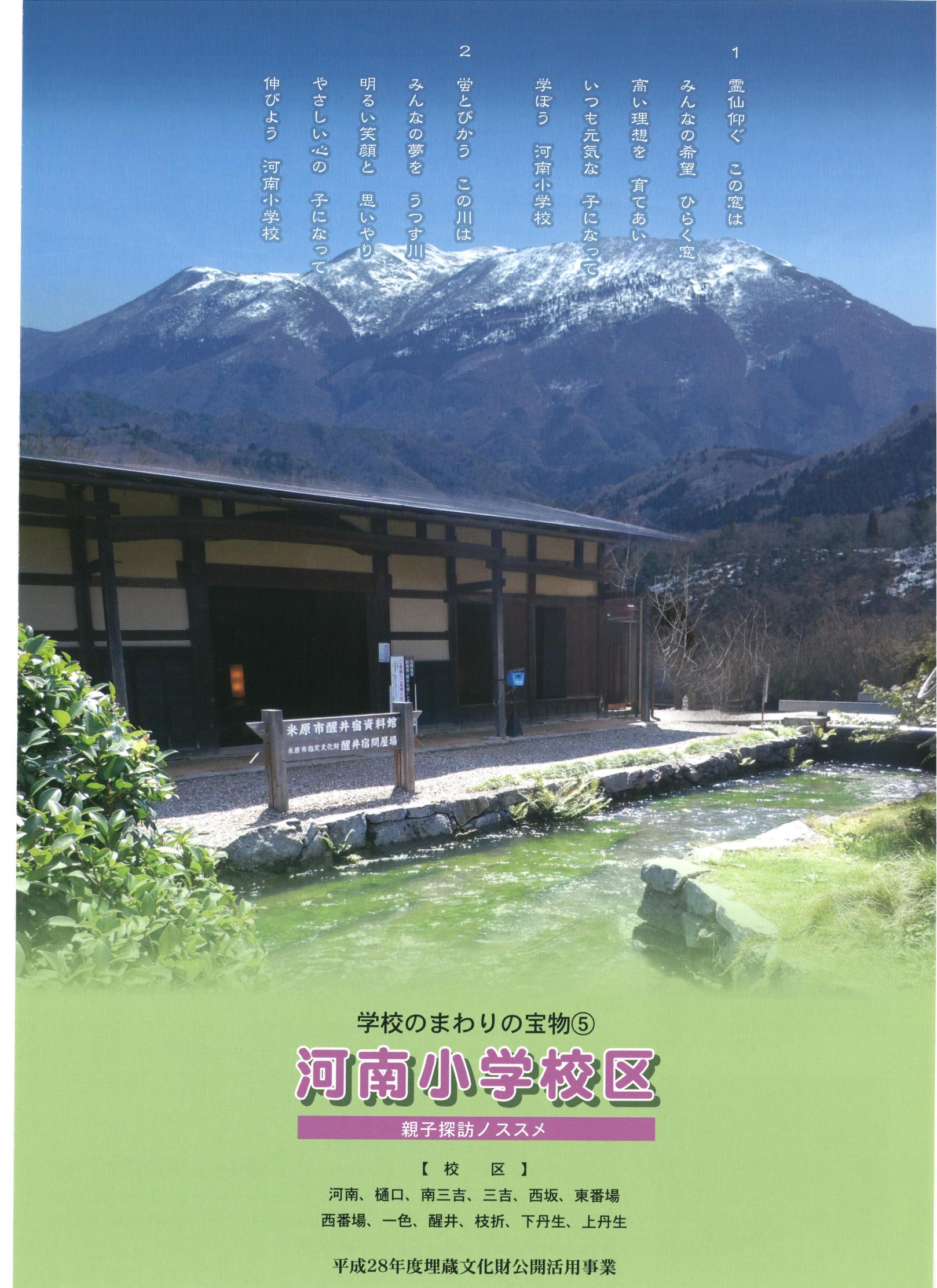
・醒井郵便局舎と醒井宿問屋場

開館時間：9:00～17:00

休館日：毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始

入場料：一般 200円、小人 100円 ※团体割引あり

1  
靈仙仰ぐ この窓は  
みんなの希望 ひらく窓  
高い理想を 育てあい  
いつも元気な 子になつて  
みんなの夢を うつす川  
やさしい心の 子になつて  
明るい笑顔と 思いやり  
伸びよう 河南小学校



## 学校のまわりの宝物⑤

# 河南小学校区

親子探訪ノススメ

## 【校 区】

河南、樋口、南三吉、三吉、西坂、東番場  
西番場、一色、醒井、枝折、下丹生、上丹生

平成28年度埋蔵文化財公開活用事業

# 校区のようす

河南小学校区は、米原市の南部にあたります。南にそびえる靈仙山の山ふところに抱かれ、校区の北を天野川が西へ流れます。靈仙山から北に向かう山地は、次第に低くなっています。天野川に浸食されてうまれた低地に達します。この山地は、天野川の支流の丹生川・和佐川・菜種川の浸食によって刻まれ、3本の狭くて長い谷底平野を作りだしています。集落は、北の横山と南の靈仙山塊に挟まれた天野川の河谷に沿う樋口・河南・醒井・一色、菜種川に沿う集落、和佐川沿いや、枝折川・丹生川に面する集落で構成され、かつては靈仙山中腹に樽ヶ畠集落がありました。昭和32年に廃村となりました。また、番場・三吉・樋口・河南・醒井・一色は、中世までは、都と東国を結ぶ東山道沿いに立地し、近世には街道や宿場が整備され中山道の街道筋になりました。

# 校区のあゆみ

丹生川や枝折川の谷筋では、縄文時代の石器が出土し、下丹生古墳や塚原古墳群などの古墳がみつかっています。白鳳時代には枝折に三大寺といふ古代寺院が建立されました。この地には、米原市を拠点とした古代豪族息長氏の流れをくむ息長丹生真人一族がいました。奈良時代には、都で絵師として活躍しています。また、靈仙山から湧く清流で名高く、水を介して靈仙の神仏と縁を結んだ高僧仲算や淨藏の伝説や、この地出身ともいわれる靈仙三藏や法性坊などの高僧を輩出し、靈仙山への信仰を物語ります。松尾寺は、広大な寺院の遺跡や貴重な文化財を伝えています。一方、太平記に「東山道一の難所」とうたわれた番場は、蓮華寺を中心に中世の景観が広がり、周辺には鎌刃城などの山城があります。合併前の校歌には靈仙・醒井の水・中山道が歌われていました。



靈仙山頂の「お池」



西坂の初一丁



法性坊初洗の水(いぼとり水)

※校区:昭和30年代の1~3つの旧村を範囲とし、地域性や歴史をもつともコンパクトにあらわします。



## 河南小学校区アラカルト

### 【自然】靈仙山 (標高 1,084m)

米原市と多賀町にまたがり、鈴鹿山脈のいちばん北にあたります。山上はなだらかで、中靈仙(三角点)1084m、南靈仙1093m、經塚山1040mの三つの頂があります。石灰岩の山で、山頂には水が溜まった「お池」などの池があり、滝や洞窟、断崖などがみられます。山麓の七湧水は、靈仙山に降った雨が湧き出たものです。この特徴的な地形が修行の場となり仏教の聖地になりました。

### 【街道】中山道と宿場町 (醒井・番場)

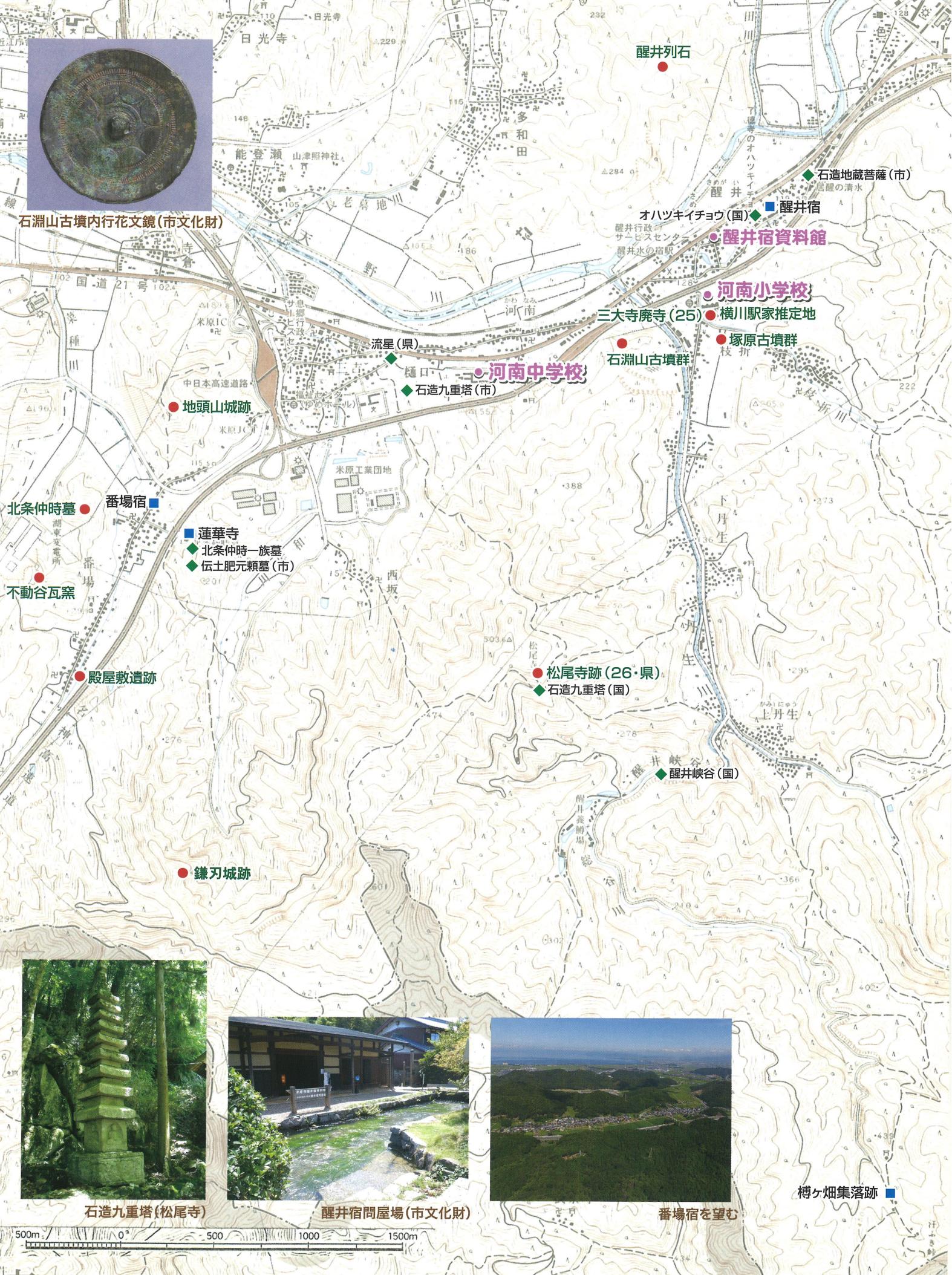
中山道は、美濃(岐阜県)との境から靈仙山の北側山裾に沿って京都に向かいます。この地は、醒井から西に向かって、琵琶湖の朝妻湊につながり、番場からは小谷道(北国道)が北陸に向かう、古代以来の東西文化の十字路です。醒井宿は、宿場内を地蔵川の清流が貫通します。番場宿は、江戸時代の初めに米原湊と中山道をむすぶ米原道(深坂道)が開かれ、東番場に宿場の機能が移されました。

### 【社寺】松尾寺参詣道丁石 (下丹生・西坂)

丁石は、社寺の参詣道に立てられた道案内の標識で、「一丁」「二丁」と距離(一丁は約108m)が刻まれています。下丹生の坂口側からの参詣道には、近代のもの12基と、室町時代末期の6基があります。西坂側には、地元で「丁仏」とよばれる室町時代末頃の13基と江戸時代初期の3基が残っています。

### 【郷土の先人】靈仙三藏と法性坊尊意

延長4年(926)に第13代の天台宗座主になった法性坊尊意は、息長丹生真人一族の出身で、いぼとり水(上丹生)を「法性坊初洗の水」といいます。靈仙三藏は平安時代前期の僧で、中国の唐に渡り、世界で8人だけの「三藏」の称号を賜りました。この地域ゆかりの偉人として顕彰されています。



★遺跡名のあと(番号)は、米原市遺跡リーフレットに対応しています。★遺跡リーフレットは、伊吹山文化資料館にあります。